
孤独な王様

aibis

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

孤独な王様

【Nコード】

N28290

【作者名】

aibis

【あらすじ】

頂が高いほど人は孤独になっていくのかな？

（前書き）

二次創作ですので、原作のイメージを大事にしたい、はたまた嫌悪する方はご遠慮願います。

「本当に駄目だと思ったことは必ず失敗に終わるんだよ。」

毎回恒例となる会長からの一言。その日の内容を決定付ける余計な言葉だと言える。現に役員達の中には、またかとうんざり顔、面倒くさいと眠り顔、次から次へと呆れ顔、兎に角精彩を欠いた表情が並ぶ。それでも話を聞いてあげるのは子供に対する大人な対応ということとで反応をしてあげようじゃないか。

「では逆にですよ、絶対大丈夫だと思えることは成功するんですね？会長」

この人は、どっかからか持ってきた受け売りの言葉を、ただカッコイイからという理由で引用するお子様だからな、話を広げるのにお兄さんに任せなさい。生暖かい目を向けながらキャッチボール。

「その顔気持ち悪いよ。」

「ヒドっ？」

はい。いきなりボールがそれました。中身のないガキのために、それでも愛ゆえ人が折角の親切心を向けてるのに、何たる言い草。

「だっていつものことだし」

アウチツ！追い討ちかい！！

「ねえ」

「お前だからな」

「先輩ですし……」

それたボールを拾うな!!

自分を中心に四方でキャッチボールなんて、こんなただのイジメじゃないか。心に傷を負った人間の気持ちをアンタらは少しぐらい理解すべきだと、本気で思うね、

だが、やればなしの人間じゃないのが、この俺。

生憎と今の状況から言えばポジシヨン的にはピツチャー。チームの要のはずだ。ハーレム王になるべくして生まれた自分の力量で皆を纏めると暗示してるに違いない。

よし。まずは振りかぶって……

「あの」

「ハーレムハーレムって、普段馬鹿なこといつてるし」

「犬の分際でね。夢見がちならかわいいものだけど、欲の塊って」

「ただの軽い野郎が好かれるわけねえしな」

「ああ。でも、きつと相手が男性でしたら築き上げられますよ。私は是非とも見てみたいですね。逆？ハーレム王国」

投げ出して！

ボークでも構わへん。今すぐチームから抜けてえ!! って、いかにかん。何を言ってるんだ。ハーレムの皆を置いていくなんてもつてのほか。そのときがきたら皆で駆け落ち。ハーレムは絶対!! ！少し幻聴が聞こえて鳥肌たってるが問題はない。もう、一回だ。

「いやですね、皆さん。俺は惚れた女に対して全員等しく愛する自信ありますよ。例えばメンバー増えても大丈夫ですから、将来のハーレムメンバーに嫉妬しないで下さい。」

心に響き合う最高のストレート。我ながら完璧な気遣い。これでメンバーの不安も解消に向けただろう。

「それでは今日の生徒会終了」

「「「お疲れ様でした」」」

「あのー皆さん……」

「さあー帰る帰る」

「最近寒くなってきたわね」

「バス遅れるぞ」

「待つてよ、お姉ちゃん」

空気って一番重要なものじゃない？見えないからってぞんざいに扱っちゃ駄目なんだよ。なのになんで『空気みたい』って言葉が、軽んじられるって意味で使われなきゃいけないんだろ。

「あっそうだ。忘れてた。」

「んっ？」

視界が少しぼやけるが、会長が戻ってくるのがわかる。さすがにやりすぎたと反省でもしてくれて……

「んしょんしょ」

ちっさな背を伸ばしホワイトボードを消している姿は正直和む。これだけで全てを許してしまいそうにはなるが、王としての威厳を保

つためにここで折れるわけには行かないんだ。

「キュツキュツと…うんっ。よし。」

何か書いたのか？

なるほど。口で言うのが恥ずかしいからって板書するとは。自尊心やら矜持、そんなのもう関係ないね。

「さすが俺のハーレム。全員じゃないのが少し不満が残りますが…」

「みんな〜待つてよ」

最後まで言わせてもらえないのには既に慣れましたよ。

まあ、いいか。それよりもなんて書いてあるか早速確認。

『成功とは人に支えられてこそ。』

本当に駄目な奴はきつと最後まで一人っ　きりで終わるんだよ。』

「…………えーと。あゝ。もしかして本日の議題は俺についてなのかな？あっはっは。ハア」

止めどない涙を拭ってくれる優しさが欲しいと切に願う、初秋。痛みが心に打ち振るえています。

「ピッチャー返しからのハートブレイク」

(後書き)

短い

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2829o/>

孤独な王様

2010年10月13日07時53分発行